海外安全対策情報 2019年度第4四半期（1～3月）

2020年4月27日
在グアテマラ日本国大使館

1 社会・治安情勢

- (1) 1月15日から、米国を目指すホンジュラス発の移民キャラバンがグアテマラに入国し、メキシコ国境に向かいグアテマラ国内を移動した。15日および16日だけで、計3,543人の移民（主にホンジュラス人と思われる）がグアテマラへ入国した。
- (2) 治安改善目的として、以下の地域（時期）において政府が実施する非常事態宣言の1つである「予防措置態勢」が発出され、集会・デモや路上の駐車などが禁止された。
 - ア 首都のあるグアテマラ県のミスコ市およびサン・ファン・サカテペケス市（1月17～22日）
 - イ グアテマラ県ビジャヌエバシ市（1月24日～29日）
 - ウ グアテマラ県の西隣のチマルテナンゴ県（2月5日～10日）
 - エ グアテマラ県の南隣のエスクイントラ県（2月14日～19日）
- (3) 3月6日、当国政府の新型コロナウイルス感染症に対する措置として「災害事態宣言」が当国全土に発出された。その宣言下で、夕方・夜間の外出禁止（午後4時～翌朝4時までの外出禁止）、公共交通機関の停止、国境封鎖、空港封鎖などが実施されている（4月27日現在も継続、なお4月20日より夕方・夜間の外出禁止は午後6時～翌朝4時までに変更された。）
- (4) 対日感情は良好である。

2 一般犯罪・凶悪犯罪

(1) 傾向

国家文民警察の発表によると、2020年1月～3月の当国における総犯罪発生件数は4,444件と前年同時期4,650件と比較して206件減少（4.4%減）した。また殺人件数も628件と、前年度同時期の927件と比較し299件減少（32.3%減）している。ただし、この減少は、上記1「社会・治安情勢」に記載したように、新型コロナウイルス感染症に対する政府措置が大きな要因と考えられ、政府措置が長引いた場合や、解禁した後の治安には十分に注視する必要がある。

(2) 2020年1月～3月の当国全土の犯罪発生件数

ア 殺人	628件（前年比 32.3%減）
イ 傷害	703件（ " 17.6%減）

ウ	強盗・窃盗	2,080件	(	"	2.6%増)
エ	強姦	75件	(	"	16.7%減)
オ	誘拐	3件	(	"	42.9%減)
カ	行方不明	547件	(	"	10.6%増)
キ	家庭内暴力	239件	(	"	8.4%減)

(3) 銃器の蔓延

当国では銃器が容易に入手できるため、殺人、強盗、短時間誘拐の殆どに銃器が使用されている。国家文民警察の報告によると、2020年1月～3月に治安当局が取り扱った殺人事件628件のうち、銃器を使用した事件は456件（全体の72.6%）に達する。依然としてこれら銃器を使用した犯罪に遭遇する（巻き込まれる）危険性は存在する。

(4) 邦人の被害事案

情報なし

(5) 邦人以外の被害事案（代表的事例のみ）

3月11日、首都グアテマラシティ第10区内の大型ショッピングモール近くで殺人事件が発生した。被害者のグアテマラ人男性1人が車を運転していたところ、オートバイに乗った犯人にライフルで射殺された。貴重品の盗難は確認されていない。本事件現場は在留邦人が居住する地域から一定の距離間隔はあるものの、在留邦人がよく食料品などを購入する大型ショッピングモールのすぐ近くであった。

3 誘拐・脅迫事件

資産家に限らず、一般市民がターゲットとなり、その大半は営利誘拐である。被害を届け出ても犯人に対する処罰や被害の補償を望めないばかりか、報復される恐れもあり、犯人に身代金を支払い、警察に被害届を提出しないケースが多い。日本人を含む東洋系外国人は一般的に裕福と見られているので、ターゲットにならないよう日頃から注意する必要がある。

4 日本企業の安全に関わる諸問題

脅迫の電話およびメールは、腹いせやいたずらによるものが大部分であるものの、避難や警察当局への通報などの処置をすることが肝要である。